

**製品名: CNK1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab09121**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	80kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CNKS1
別名	CNKS1; CNK1; Connector enhancer of kinase suppressor of ras 1; Connector enhancer of KSR 1; CNK homolog protein 1; CNK1; hCNK1; Connector enhancer of KSR-like
遺伝子 ID	10256.0
SwissProt ID	Q969H4
免疫原	抗血清はヒト CNK1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 491-540

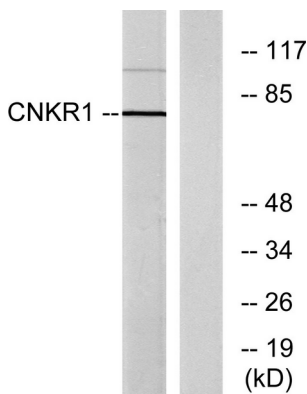
**背景**

この遺伝子は、PDZ、PH（プレクストリン相同性）、SAM（不稔性αモチーフ）ドメインなど、タンパク質間相互作用に関与する複

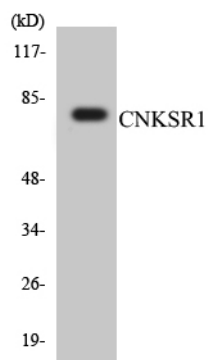
数のモチーフを含むタンパク質をコードしています。コードされているタンパク質は、受容体チロシンキナーゼシグナル伝達の足場成分として機能し、異なるシグナル伝達経路間のクロストークを媒介する可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。 [RefSeq 提供、2014年7月],機能:Rasシグナル伝達経路のアダプタータンパク質または調節因子として機能する可能性があります。 ,PTM:チロシンがリン酸化されています。 ,類似性:CNKSRファミリーに属します。 ,類似性:1つのCRICドメインを含みます。 ,類似性:1つのPDZ (DHR) ドメインを含みます。 ,類似性:1つのPHドメインを含みます。 ,類似性:1つのSAM (sterile alpha motif) ドメインを含みます。 ,サブユニット:RHO および RALGDS と相互作用します。 ,

## 研究分野

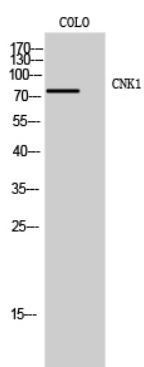
## 画像データ



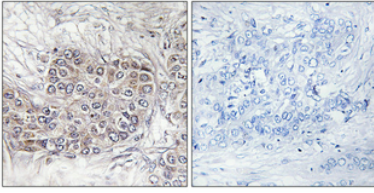
COLO205 細胞ライセートの CNKR1 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



CNKSR1 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



CNK1 ポリクローナル抗体を用いた COLO 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。